

北海道学校体育研究連盟 第27回 全道研究担当者会議 (資料)

北海道学校体育研究連盟：留萌支部

Key
Word

“もっと ずっと”を未来(あす)の“きっと”につなげよう!

【ルモイ体育と子どもたち】

- 小中連携の具体化を見据えた授業づくり
- 各小中学校における体力の向上を目指す取組
- 運動の日常化・習慣化を促す体育の授業づくり
- 体力・運動能力テストにおける種目間格差
→種目による成績の偏り(高:筋力・敏捷性 低:走力)

【我々の実践で実現したい!】

- ☆9年間で目指す力が身に付き、高まる体育
→系統性を見通した小中連携(小中連携・中連携)
- ☆「2020 TOKYO」を見据え、運動やスポーツがある子どもの育成
- ☆体育の授業で実現する子どもの体力UP, 運動能力UP
- ☆自ら、みんなと考え・練り・解決する、深い学びの体育

子どもたちの体と心を見つめ

研究主題

「今」をたがやし「未来(あす)」の力をはぐくむ留萌の

体育

つくりたい授業

◎「楽しい」を創り 浸らせながら 指導内容を身に付けさせる授業

- 「やることハッキリ! 運動タツプリ! 手応えバッチリ!」 ○課題・ねらいの明確化
- 十分な運動量 ○明らかな評価の視点

◎体育・運動に「肯定的」で「前向き」なコエが聞こえる授業

- 「楽しい!」 ○「がんばれー!」 ○「できた!」 ○「上手だね!」 ○「こんどこそ!」 ○「ドンマイ!」

つくりたい授業を具現化する3つの「つながり」

【視点1】「単元的设计」前向きな学びを生む仕掛け・枠組み→子どもと運動をつなぐ

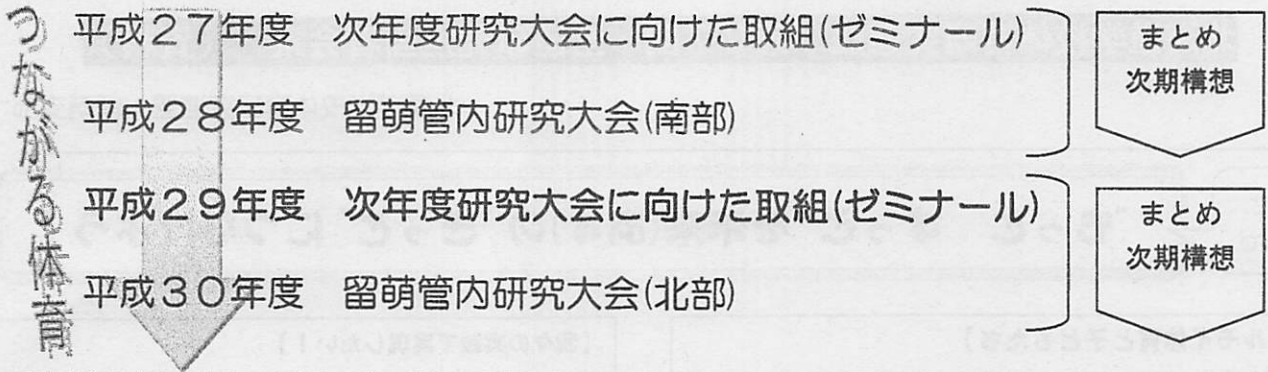
- ◇単元ははじめと終わりの演出 ◇身に付けたい技能、高めたい力をハッキリ・スッキリ・ズバリ!
- ◇運動(種目)の本質を捉えた学ばせ方 ◇単元を通して高めたい体力・運動能力 ◇9年間の積み重ねを意識した単元設計

【視点2】「学びの設定」学びを進める場と道すじ→子どもと子どもがかかわる

- ◇学びの場、学びの過程、学びの形態 ◇公正、協力、責任、参画、共生への“ヤル気”
- ◇共に学び、共に汗し、共に乗り越え、共に競い、共に高まる

【視点3】「学びへの対応・見取り」学びを深める手立て→子どもと教師のつながり

- ◇積極的な指導と見守る指導 ◇指導場面、指導タイミング、指導のテンション
- ◇評価の視点(規準・基準)、評価の方法 ◇子どもが自己評価(検証)できる場面づくり



平成29年度 留萌管内学校体育研究会ゼミナールの概要

今年度は、新学習指導要領についての学習会を行いました。現在、留体研の会員は46名。そのうちの8割の参加者があり、個々が課題をもって意欲的に参加していました。

内容は『①新学習指導要領の概要説明 ②個人・グループ演習 ③研究部提案』でした。

～個人・グループ演習の様子から～

《設定》

- ・あなたは、体育の学習指導案をつくっている若手教員から相談を受けました。
- ・あなたは、研究部長として複数の研究部員の意見も取り入れつつ、若手教員の指導案(ダメ指導案)を加筆、修正することになりました。
- ・新学習指導要領を踏まえた授業づくりをしていかなければなりません。

《演習1》個人作業

- ・事前の概要説明や持参資料を参考に、個人で手直しを行う。
- ・「正解」を求めるのではなく、自由な発想で考えていく。



まずは個人で「ダメ指導案」の修正から！

《演習2》グループ作業

- ・各自の考えを持ち寄り、根拠を明らかにしながら交流をしていく。
- ・立場や経験年数に左右されず、多様な意見を取り入れ、一つの形にしていく。



ベテランも若手も自分の考えをぶつけ合います。

《参加者の感想から》

- ◎個人で考えていても、どこから手を付けていいのか分からず困りました。持参資料等も見ましたが、やはり、グループ交流で出された意見が勉強になりました。(初任者：小)
- ◎“新”学習指導要領と言われると何か目新しいことをしなければという意識になりがちです。しかし、これまでの留体研の取組を振り返ってみても、今後生かされることが多くあることを認識できました。(12年目：中)
- ◎分かって、できるようにさせることを意識した授業づくりにより、運動の苦手な子にも光が当たる場面が増えると思います。今回の演習では、多角的、多面的に運動を捉え、交流を深めました。若手、ベテランを問わず、意見し合えるのは、留体研のよさではないかと思います。(23年目：小)

